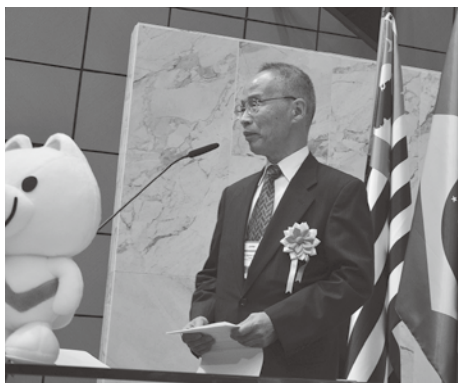


寄稿

2 わかやま 南北アメリカ協会の 設立&活動について

わかやま南北アメリカ協会 会長

迫間 脩



和歌山県人ブラジル移住100周年記念式典

I、和歌山と移民

日本に於ける最初の集団移民は、明治元年にグアム、ハワイより始まり、その後は北米、中南米へと多くの人々が「夢と希望」を抱き海を渡りました。その中で、和歌山県は全国でも第6番目の移民県と言われており、北米、中南米を中心に多くの県民が移住をしています。

昭和28年に和歌山県は移民課を設置、ブラジル移住への説明会を県内各地で実施。特に「移民の父」と呼ばれているみなべ町出身の故松原安太郎氏が拓いた「松原移住地」へ戦後最初の集団移民として多くの県人が入植。カナダのバンクーバーには美浜町三尾地区から漁業で多くの村民が移住、今でも同地区は通称アメリカ村と呼ばれています。又、紀の川筋を中心とした那賀地方には明治初期より多くの私塾があり、人々に渡米を進め、主にカリフォルニアへの移住が盛んでありました。



50 年前の松原移住地

この様に多くの県民が海外に移住をしていますが、県内には中南米諸国との交流を目的とした民間団体はなく、2007年にブラジル各地を訪問した時にブラジル在住の県出身者の方々から、気軽に相談、依頼等が出来る民間団体設立の要望が多くありました。

2008年、有志により、「和歌山県中南米交流協会」を設立。翌年、2009年の「ブラジル和歌山県人会創立55周年記念式典」への参加を始め、主にブラジルとの交流が中心でありました。その後、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ペルー等にある各和歌山県人会を訪問、又、県



50 年前の松原移住地の日本語学校

内では故小野田寛郎氏による講演「人は一人では生きられない」、駐日パラグアイ大使には「パラグアイにかけた夢」と言うテーマで市内、湯浅で講演を頂きました。しかし、和歌山県からは中南米だけではなく、アメリカ、カナダにも多くの県人が移住をしています。これらの地域も含めた新しい民間交流団体の必要性を以前より考えていました。

Ⅱ、「わかやま南北アメリカ協会」の設立



設立総会時の南加和歌山県人会の子弟

昨年7月、北米・中南米を含めた新しい民間交流団体「わかやま南北アメリカ協会」を有志により設立。今後、北米・中南米諸国の各県人会を窓口として、引き続き交流に取り組んで行きます。今年の始め「NPO法人日ノ岬・アメリカ村」が美浜町内に設立され、今後このNPO法人とも連携し「B・C州和歌山県人会」との交流を進めて行きます。

設立総会には多くの来賓の方々、そして一般



設立総会での懇親会

の皆様に参加を頂き、新しい会の出発となりました。活動として、主に「人の交流」、「文化の交流」、「経済の交流」を中心として和歌山と南北アメリカ諸国にある各県人会を窓口として、和歌山にルーツを持つ人々との交流に取り組んでいきます。約9年間の中南米諸国にある各県人会との交流実績もあり、今後は北米、特に西海岸にある各県人会との交流を中心に進めて行きたいと考えています。

設立総会にはアルゼンチン、メキシコ、ブラジル等の各国の食べ物や南米のフォルクローレ演奏、ブラジルのボサノバで参加者の皆様にもお楽しみ頂きました。これからも、ご支援、ご協力の程、よろしくお願い致します。

Ⅲ、和歌山県人ブラジル移住 100 周年記念式典参加



ブラジル移住 100 周年記念式典

昨年、10月は和歌山から初めてブラジルに県人が移住して丁度100年に当たり、サンパウロで「和歌山県人ブラジル移住100周年記念式典」が開催され、知事を始め、多くの県議会議員の方々が参加をされました。当会からも16名が式



100周年記念式典参加者の方々と

典に参加、ブラジル在住の方々との交流を深める事が出来ました。

私は参加者の方々とは式典後、別行動で和歌山琴美会の皆様と戦後集団移住の始まりの地であり、和歌山と関係の深い南マット・グロッソ州ドウラードス市を訪問、同市にある日本語モデル校へは和歌山琴美会より大正琴を7台贈呈、そして、この大正琴を通じて日本文化の継承に繋がるものと期待しています。

今回、ドウラードス市を訪れた大きな目的の一つは、昨年度に和歌山大学と連邦大学であるUFGD(UNIVERSIDADE FEDERAL DA GRANDE DOURADOS)と結ばれた大学間協定の具体的取組等について学長にお話をお聞きする事でありました。

北米、ヨーロッパ、オーストラリア等々への若者の留学希望者は多くあると思いますが、日本から一番遠い国で、しかも治安のあまり良くないブラジルへの留学希望者は少ないのが現状であります。しかし、現在ブラジルには約190万人とも 言われている世界最大の日系社会が



UFGD 連邦大学・学長表敬訪問



今も残るクルバイ移住地の看板

あり、そして、戦前戦後を通じて和歌山県からは約1,600家族、約6,000人近くの県人がブラジルに移住をしています。県人会によるとブラジル国内には和歌山にルーツを持つ人が約40,000人程住んでいると言われており、ブラジル各地で活躍をしています。又、当時、和歌山県が現地の有志とで設立した和歌山不動産会社が「第2の和歌山」を作ろうとして昭和33年にドウラードス市から約170km奥地にあるクルバイの地に移住地を開き、多くの県人が移住をしました。この様に和歌山との関係が深いドウラードスとの交流を更に深めて行きます。

IV、アルゼンチンとの交流



一昨年の10月には「アルゼンチン和歌山県人会創立50周年記念式典」がブエノスアイレスで開催、当会からも8名が参加、県からは副知事、県議会議員の皆様が式典に参加、そして、昨年10月には知事を始め県議会議員の方々がブラジル、アルゼンチンを訪問。この様に和歌山とアルゼンチンとの交流が続き、特に今年は「日本・アルゼンチン友好120年」を迎えるに当たり、駐日アルゼンチン大使アラン・ペロー氏を



駐日アルゼンチン大使アラン・ペロー氏

お招きし、特別講演会を4月14日(土)、県立図書館2階メディア・アート・ホールで開催、同時にアルゼンチンタンゴ、フォルクローレ演奏を実施。当日は雨の心配もありましたが、講演会終了時まで降らず、先着200名としていましたが、約240名程の方にお出でを頂き無事に終わる事が出来ました。

現在、「アルゼンチン和歌山県人会」には約410名程の会員がおり、ブエノスアイレスを中心に活躍をしています。

この様に中南米諸国にはメキシコ、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン、ブラジルの5ヶ国に和歌山県人会があり、会員同士の親睦を兼ねて活動をしています。しかし、一世の高齢化により二世・三世へと活動が引き継がれていますが、各県人会共通の課題として県人会活動への若者の参加が少なく、今後の大きな課題となっています。

これからは若い人たちが魅力を感じる県人会活動が出来るかどうか問われていると思います。



アルゼンチンタンゴ

昨年10月の「和歌山県人ブラジル移住100周年記念式典」の時にも4ヶ国の県人会関係者が集まり、これからの県人会活動について検討をしましたが時間の都合上、具体的な解決策は見つけられませんでした。



第6回ふれあい日本の旅

V、第7回ふれあい日本の旅

今年、「第7回ふれあい日本の旅」としてブラジル日本語センター主催で、ブラジル各地にある日本語学校で日本語を学ぶ移住者子弟の若者達が7月3日に成田空港に到着、その後、日本各地を訪問し交流を深め、13日の午後に和歌山に到着します。二泊三日の短い予定ですが県内の各家庭でのホームステイを通じて、日本の伝統文化や習慣、一般家庭での生活体験、そして同世代の日本の若者達との交流を大変楽しみにしています。14才～17才までの青少年ですが、訪日の大きな目的は「日本を知り、日本の文化や習慣に触れる事」で、メンバー全員が初来日とのことで、きっと忘れる事の出来ない思い出になる事と思います。

この様にホームステイを通じて交流を深める事により、一層、和歌山とブラジルとの絆が深まるものと期待をしています。「わかやま南北アメリカ協会」はこの様な活動を通じて北米・中南米諸国にある各県人会を交流の窓口として今後とも取り組んでいきます。

Ⅵ、終わりに

昨年の7月に設立したばかりの「わかやま南北アメリカ協会」ですが、多くの皆様方のご協力、ご支援を頂きまして活動を続けています。

戦後、日本は右肩上がりの経済成長を通じて、世界有数の経済大国となりましたが、近年は少子高齢化による人口減少が続いております。しかし、在住外国人は230万人を超え、年々増加しており、和歌山でも同様であります。私達は否応なく外国人との共存が身近なものとなって来ています。

当会は和歌山にルーツを持つ海外の方々との相互交流を通じて、和歌山との「架け橋」になればと考えています。特に、今後はアメリカ、カナダ(主に西海岸)にある各県人会との交流を進めて行きたいと思います。設立したばかりの新しい会ではありますが、今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

和歌山県中南米交流協会創立9年の歩み ～その活動内容と主な具体的取組～

年	活動内容	具体的取組
2008年	・和歌山県中南米交流協会発足	・2007年にブラジルを再訪問。現地の和歌山出身の方々からは是非とも交流窓口となる民間団体を立ち上げてほしいとの要望あり。今後は民間団体が中心となり国際交流を深めて行く必要があると思い設立
2009年	・在伯和歌山県人会連合会創立55周年記念式典への参加	・中南米交流協会として初めてのブラジル和歌山県人会の創立記念式典に出席、そして戦後移住の始まりであるドラードスを訪問。これからの和歌山とブラジルとの交流について意見交換。
2010年	・在伯和歌山県人会連合会御一行47名来県 ・小野田寛郎氏の講演会開催	・知事一行の55周年記念式典への参加に伴う返礼として和歌山に来県。ホテルグランビアにて県主催による歓迎式典に出席。 ・和歌山大学で「人は一人では生きられない」と言うテーマで学生、市民の方々を対象に講演をいただきました。
2011年	・ドラードス市日本語モデル校へのサポート事業への参加 ・パラグアイ和歌山県人会訪問 ・駐日パラグアイ大使の講演会開催	・和歌山県国際交流協会によるドラードス日本語モデル校へのサポート事業に参加、教職員の方々との意見交換、授業見学などを通じて交流をより一層深める機会を頂きました。そしてこれからの青少年交流の必要性を強く感じた。 ・アルゼンチンとの国境近くの町に県人会長がお住まいになっており、自宅を訪問。県人会長とは今後のパラグアイ和歌山県人会と和歌山との交流について懇談。アスンシオンに於いても県人の方々と交流。 ・東京の駐日パラグアイ大使館訪問、大使と面談、6月に湯浅町での講演会を依頼し、「パラグアイにかけた夢」と言うテーマで講演会開催。
2012年	・ブラジル青少年海外交流事業への参加	・和歌山大学観光学部の学生2名が和歌山県国際交流協会から前年に実施したドラードス日本語モデル校へのサポート事業の一環として、ドラードスを訪問するに当たり同行。これからの交流事業のありかたについて意見交換をする。
2013年	・ブラジルビジネスセミナー＆交流会をアバローム紀の国で開催	・来年4月にサンパウロで開催される「在伯和歌山県人会連合会創立60周年記念式典」への参加にあたり、式典参加だけではなく、和歌山とブラジルとの継続的な繋がりを続けて行く為にも経済交流が必要であると考え、県の応援を頂き実施する。
2014年	・在伯和歌山県人会連合会創立60周年記念式典への参加 ・ペルー和歌山県人会訪問	・4月にサンパウロで「在伯和歌山県人会連合会創立60周年記念式典」に出席、仁坂知事、県議会議長、各県会議員の方々、経済ミッションとして県内企業から15社参加、民間訪問団として35名参加。戦後、最初の集団移住地としてのドラードス近郊の松原移住地を初めて知事の訪問を頂く。 ・県人会への訪問は民間団体としては初めての訪問となり、ブラジル和歌山県人会、パラグアイ和歌山県人会に次ぐ交流となる。
2015年	・平成26年度中南米日系農業者連携交流事業に参加 ・ドラードスの養鶏業者への太陽光発電の可能性についての市場調査 ・経済交流に向けて取り組む ・ワイン試飲会＆交流会開催 ・講演会＆交流会開催	・1月、農林水産省の実施している「農業ビジネス創出交流」に参加、ブラジルを訪問、日本との農業ビジネスの可能性について取り組む。 ・近年の干ばつにより水力発電が低下し、火力発電への依存が高まり、電気代の高騰により太陽光発電への関心が増大、紀南電設(株)に市場調査依頼。 ・田辺市出身の方より自家製のワインの和歌山への輸出の要望あり。今回、(株)仙石様に輸入を要望、600本の輸入を実現、継続的な輸入の可能性を探る。 ・平成27年11月29日(日)、交流会開催。参加者約60名、南米の代表的な音楽「フォルクローレ」の生演奏あり。 ・ブラジル、及び南米との経済交流の実現を目指す。 ・田辺市出身の平上氏のブラジルワイン600本輸入、試飲会の開催。 ・「日系二世が見てきたブラジル」と言うテーマで講演会＆交流会実施。 ・ブラジル和歌山県人会創立者である「竹中儀助氏」について講演会実施
2016年	・大学間協定に向けて取り組む ・アルゼンチン和歌山県人会式典参加	・和歌山大学とドラードスにある国立大学との協定締結への橋渡し実施。 ・県人会創立50周年記念式典に会員と出席。
2017年	・駐日アルゼンチン大使の講演 ・和歌山県人ブラジル移住100周年 ・大学間協定締結へ	・駐日アルゼンチン大使による講演会開催予定 ・和歌山県人ブラジル移住100周年記念式典に参加予定。 ・和歌山大学とドラードスにある連邦大学との具体的取組へのサポート
2017年7月	わかやま南北アメリカ協会設立	和歌山からは北米にも多くの県人が移住をしており、新しい会を設立